

はじめに

古い建物の大規模な改修をリノベーションとすることがあります。住宅や校舎をはじめ、神社仏閣も20年・30年・60年といった周期で改修が行われます。修理する人の技術の継承や使われている建材の耐久年数など、様々な理由でその周期は決まっているそうです。リフォーム、リニューアルなど似た言葉もありますが、リノベーションは、既存の建物に手を入れて機能の高度化等を図り、新しい価値を加えるという場合に用いられるようです。

昨年12月に、中央教育審議会から学習指導要領等の改善及び必要な方策等についての答申が出され、この3月には、新しい学習指導要領が告示されました。概ね10年に一度の大きな改訂です。未来を見据えた新しい考え方が教育現場に根付くまでにおよそ10年、これはベテラン教員から若手教員への技術の継承にとっても適^{かな}う時間と言えるでしょう。「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラムマネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」等、目の前の教育を多面的・多角的に見つめ直すことで、何を改めて何を取り入れるのか、そして何を繋^{つな}いでいくのかを明確にし、改善を繰り返しながら着実に実行していくことが重要だと言えます。学びの質の向上を目指した更なる挑戦が求められます。

奈良県立教育研究所では、様々な調査等の分析により明らかになった教育課題の解決や教職員の資質・能力の向上を支援するための方途について検討してきました。課題解決に資するデータの収集や多様なニーズに合った研修の実施、教育現場との協力による先駆的な実践研究等にも取り組んでいます。その中で、昨年度までは、当教育研究所における指導主事等の研究を「研究紀要」に、奈良県教育委員会指定研究員によるプロジェクト研究・個人研究を「研究集録」にまとめてきましたが、本年度から、それらを「奈良県立教育研究所紀要」として一本化しました。これは、本県の教育課題の解決に向けて取り組んだ調査・研究の結果を、より分かりやすく見える形で発信していくためのリノベーションです。これらの成果を日々の教育活動に御活用いただくとともに、当教育研究所の今後の研究の進展の上で参考とさせていただきますので、御意見をいただければ幸いです。

なお、本冊子の掲載内容は、紙幅の関係上、各研究論文や報告等の要約となっています。更に詳細な内容につきましては、当教育研究所のWebページにて公開しています「平成28年度奈良県立教育研究所紀要」及び当教育研究所図書閲覧室に保管しています「研究報告」を御覧ください。

末筆となりましたが、指定研究員の皆様をはじめ、研究を進めるに当たり多大な御協力と御支援を賜りました各関係校（園）の教職員の方々に心から厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

奈良県立教育研究所

所長 吉田育弘

